

症例検討 蜂窩織炎

H27.2 金町店

蜂窩織炎とは

皮膚および皮下組織の急性細菌感染で、蜂巣炎、フレグモーネとも言われる。

原因は多数あるが、レンサ球菌またはブドウ球菌が原因であることが最も多い。

小児ではインフルエンザ菌 (*Haemophilus influenzae*)、高齢者や糖尿病患者では緑膿菌も原因となりうる。

ブドウ球菌による感染は人間や動物にかまれたり、水や泥の中でけがをした場合に引き起こされることがある。

症状

蜂窩織炎は体のどこにでも生じるが、特に脚がかかりやすい。でやすい症状は疼痛、急速に拡大する紅斑、浮腫である。感染した皮膚は熱をもってわずかに腫れ、大小の水疱ができることもある。

この腫れは皮膚内部のリンパ管の流れを遮るために起こる。

診断は感染部の外観と症状に基づいて行われ、血液検査等は原因菌を同定することは少ない。



治療

基本的には抗生剤の服用または点滴にて予後はよい。

まれに壊死性皮下感染や菌血症を合併する場合がある。

処方例

フロモックス錠 100 mg 3T

ビオフェルミンR錠 3T

分3 毎食後 7日分

ミルタックスパップ 30 mg 6枚

1日2回 貼付

効果が見られない場合はレボフロキサシン錠の服用も有効である。

患部が熱をもっている場合は冷却することも効果的である。

患部はできるだけ動かさず、高い位置に保つことで腫れを軽減できる。

また、浮腫を改善させることで抗生剤を使用しないという対応もされる。

浮腫の改善には痛みや炎症が強くなければ、弾性包帯による圧迫も効果的だが、弾性ストッキング等はマッサージ効果を兼ねるものが多いため、使用を避けることが望ましい。

予防

怪我や虫刺されがある場合は、患部を清潔に保つ。

白癬部の小さな傷から細菌が侵入することがあるため、白癬症の治療をきちんとすることも大切である。

リンパ浮腫があるとその部位に炎症が起こりやすくなるため、普段より弾性ストッキング等の使用や柴苓湯の服用など、むくみのケアをしていくことで発症を抑えることができる。

参考文献：Merkmanual、むくみ.com